

デイリー・ジーザス・ニュース #253

火曜日…テストと指導の日

イエスは二人の息子のたとえ話で指導者たちを叱責する
マタイ21. 28-32

28 「どう思いますか。ある人に二人の息子がいました。彼は長男のところに行って言いました。『息子よ、今日、ぶどう園に行って働きなさい。』

29彼は『行きません』と答えたが、後で考えを変えて出かけて行った。

30それから父親はもう一人の息子のところへ行き、同じことを言いました。息子は「行きます」と答えましたが、行きませんでした。

31 「二人のうちどちらが父の望みどおりにしたでしょうか。」

「最初です」と彼らは答えました。

イエスは彼らに言われた。「よく聞きなさい。取税人や遊女の方が、あなたがたより先に神の国にはいる。」 32 ヨハネは義の道を示すためにあなたがたのところに来たのに、あなたがたは彼を信じなかった。しかし、徴税人や遊女たちは彼を信じた。あなたがたはそれを見ても、悔い改めて彼を信じようとしなかった。」

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = ^{MT}、マーク = ^M、ルカ = ^L、ヨハネ = ^J、使徒行伝 = ^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書書を識別します。さらに、**赤いイタリック体はイエスの言葉を示します**。旧約聖書の引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト	
位置	エルサレムの神殿の庭
タイムライン	4月上旬 (39ヶ月目)
イエスの生涯の文脈	第8段階: 受難週
	C. 火曜日: テストと指導の日
タイトル	3. イエスは二人の息子のたとえ話で指導者たちを叱責する

コメント:

前の朗読では、ユダヤ人の指導者たちが、洗礼者ヨハネを通して神から既に示された真理を拒み続けた時、イエスが彼らに神の御心に関する更なる啓示を与えることを拒まれた様子を見ました。今日は、イエスが指導者たちに彼らの不従順の本質とその結果を示した三つのたとえ話の連続から始まります。今日の朗読を含め、これらのたとえ話のうち二つを福音書記者に含めたのはマタイだけです。

デイリー・ジーザス・ニュース #253

これらのたとえ話は、イエスが教えの中でなぜたとえ話を用いたのかを、非常によく思い出させてくれます。たとえ話は、直接語りかけても耳を傾けてもらえない敵に語りかける手段を与えるためのものでした。生き生きとした物語の中にメッセージを織り込むことで、イエスは、そうでなければ全く耳を傾けようとしていない人々を惹きつけることができました。この三つのたとえ話の連続において、ユダヤ人の指導者たちは、イエスが実は自分たちを通して語りかけていることに気づいたことに注目してください。このような敵対的な状況において、たとえ話は巧みで、超自然的な知恵に満ちたコミュニケーション手段でした。

最初のたとえ話は一見すると単純です。物語に登場する二人の息子は正反対の性格でした。長男は父親から命令を受けましたが、従うつもりはないと正直に告げました。彼は公然と反抗しました。後に「考えを変え」（「悔い改める」という意味）、父親に従うことを決意しました。彼は「遅くてもしないよりはまし」という原則に従順という問題に当てはめた好例です。イエスは、ヨハネ（そしてイエス）の説教で悔い改めた娼婦や税金徴収人たちは、この息子のようにだと言いました。

もう一人の息子にも同じ命令が与えられました。彼は父に従うつもりはなかったのに、「はい」と答えました。彼は自分の不服従を嘘で覆い隠しました。これは偽善です。父に従うと言いながら、彼は不服従を続け、決して悔い改めませんでした。ユダヤ人の指導者たちは、まさに偽善的で、常に不服従を繰り返す息子のように振舞っていたのです。

物語の鍵は、「兄弟のうち誰が父の意志を実行したのか？」という質問にあります。

指導者たちは、実際に父に従ったのは、後に悔い改めて父の意志を実行した兄弟であり、従うと言ったものの実行しなかった兄弟ではないと正しく答えました。

悔い改めてイエスに従い始めた罪人たちと、ユダヤ人の指導者たちのようにイエスを拒絶し続けた人たちに直接当てはまることに加えて、ここには私たち全員にとって従順についての重要な教訓があります。

私たちは誰一人として、最初から神に従うことはありません。生まれた瞬間から、不従順が私たちの「デフォルト」モードです。神に従わないことを正直に告白し、後になって悔い改めて神の御心を行うことが、私たちにできる最善のことです。

永遠の視点から見れば、神にとって重要なのは、いつ神に従い始めるかではなく、そもそも従っているかどうかです。私たちの従順は、本来あるべき時期よりも遅れて現れます。しかし、どれほど「遅れて」いても、私たちが悔い改めて神の御心を行い始めるとき、神は喜び、私たちが従順な者とみなしてくださいませ。これが神の慈悲深い慈愛です。この世において、従順であることは決して遅すぎることはありません。

一方、言葉で覆い隠し、不従順をありのままに認めようとしていないのは偽善です。これはまさに致命的な罪です。まさに指導者たちが、ヨハネの浸礼の背後にある権威についてイエスに尋ねられた際に正直に答えようとしなかったのは、まさにこのことでした。彼らは公の場では常に神に「はい」と答えていましたが、その言葉自体が神に対する積極的な反逆だったのです。

デイリー・ジーザス・ニュース #253

これは示唆に富み、深い洞察に満ちたたとえ話でした。短い言葉の中に、強烈なパンチが込められていました。まさにイエス流のコミュニケーション術でした。

応用：

「はい、神様、私はあなたに従います」と言いながら、実際には従っていない行動パターン、習慣、態度、行為はありますか？

解決の第一歩は、神への不従順を罪として認めることです。

今日、悔い改めたいと思う不従順の領域はありますか。

今日、あなたは神に赦しを委ね、あなたの意志を神の御心への喜びに満ちた服従へと変える力を持つ神を信頼しますか？ 覚えておいてください、悔い改めて神に従うのに遅すぎることはありません！